

CSW62（国連女性の地位委員会）日本政府代表団 ユース代表  
植田奈穂美（JAUW 若者支援）

CSW62 に大学女性協会の若者支援で参加させて頂きました、植田奈穂美と申します。本日は CSW62 での経験、それについての私の思いについて皆様に共有出来ればと思っております。

当時、私は上智大学大学院の修士 2 年に在籍しておりました。現在は金融機関に就職をし、富山県の支店に在籍しております。就職活動を通じ、ジェンダーによって得ることの出来る経験が異なるような現在の日本社会のあり方に違和感を覚えたことをきっかけに、CSW62 への参加を希望しました。大学女性協会から派遣をして頂くことが決まった後、光栄なことに日本政府代表団のユース代表を務めさせて頂くこととなり、ニューヨークでは田中由美子代表始め政府代表団の方々、そして国連代表部の皆様にも大変お世話になりました。

この CSW62 を経験して感じたことは様々でした。特に、ユース代表として政府代表団に入った経験から、今後の日本の若者の CSW へのより積極的な参加の必要性、そして帰国後のユースの CSW 関連活動への継続的なコミットメントの必要性を強く感じました。

会期中、非常に印象に残ったのは、サイドイベントにおける各国の若者の主体性、そして発信力です。同世代の若者が、各国政府が開催に関わるサイドイベントでモデレーターを務めていたり、パネリストとして参加者に提言を行う様子は、非常に刺激的であったと同時に、我々日本の若者が彼らに遅れを取っているという焦りを感じさせるものでした。いかに各国の若者が Gender Parity の問題について日々主体的に行動をし、周りの大人を巻き込むことで自分たちの考えの発信に繋がってきているのかを目の当たりにしたことで、私たち日本の若者も今後 CSW の場で、NGO の皆様、そして日本政府の皆様と連携しながらそのように発信力を強めていくことの必要性を痛感しました。

その実現の為には、我々ユース側が CSW の場に自分たちの意見をぶつけられるような体制を整える必要があります。ユースとして CSW に派遣して頂く機会を得た若者は、各 NGO から複数名ずつ、計 10 名超になります。ユースとして得た経験を、これから CSW に参加する若者たちに還元するために何が出来るのか、共にニューヨークでの日々を過ごした各 NGO のユースと協力しながら引き

続き検討していきたいと強く感じております。国連も、ユースのためのプログラムを期間中に開催し、若者の主体的な CSW への参加を強く推奨しています。このような流れの中で CSW における日本の若者の発言力を強めることは、国連の場、ひいては国際社会の場での日本のプレゼンスの向上にも大きく寄与するものと考えております。この視点については、ニューヨークの日本国連代表部の皆様からも力強いエールを頂きました。ニューヨークでは人権問題を扱う社会部の齋藤純公使ともお話しをさせて頂く機会を頂戴し、今後日本の若者がより主体性を持って CSW に関わることが出来るように頑張りたいとお言葉を頂きました。政府の皆様ともより密に意見交換が出来るようなユースの体制を作り、周りの方々を巻き込み、連携を図ることで、ゆくゆくは日本のユースが CSW の場で発言の機会を持つことが出来るまでにその活動が大きくなっていけばと願っております。

最後になりますが、次の機会には是非皆様にお目にかかせて頂ければと思います。本日は誠にありがとうございました。

(CSW62 報告会に寄せられたメッセージより)